

山陰の弥生時代

～山陰弥生回廊を歩く～



青谷上寺地遺跡出土木製容器



加茂岩倉遺跡出土銅鐸



妻木畹田遺跡



西谷3号墓 埋葬儀礼復元模型



青谷上寺地遺跡出土土器



荒神谷遺跡(荒神谷銅剣の日)

史跡整備ネットワーク会議
事務局

島根県教育庁文化財課 〒690-8502 島根県松江市殿町1番地
TEL.0852-22-5880 FAX.0852-22-5794
鳥取県教育委員会事務局文化課 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目271番地
TEL.0857-26-7932 FAX.0857-26-8128



本誌は再生紙を
使用しています。

史跡整備ネットワーク会議

発行：2008年3月

山陰の弥生時代

—山陰弥生回廊を歩く—

はじめに

山陰両県の弥生時代の遺跡では、荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡などの青銅器出土地や、四隅突出型墳丘墓がよく知られています。そのほかにも数多くの遺跡があり、現在鳥取県で約450(因幡約50、伯耆約400)、島根県で605(出雲435、石見155、隠岐15)の遺跡が確認されています。

その中の主な遺跡から山陰の弥生時代をたどってみましょう。

年表

時代区分	西暦	主な出来事
弥生時代	前期 前8～9世紀頃 (前4世紀頃)	本格的な水稲耕作が始まる。
	中期 前4世紀～ (前2世紀) 前1世紀頃	倭人は百余国に分かれ、一部が漢の楽浪郡に朝貢する。 〔『漢書地理志』〕
	後期 後1世紀～ 57 147～189 239 248	倭国国王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を賜る。〔『後漢書東夷伝』〕 倭国大乱〔『三国志』魏志倭人伝〕 倭の女王卑弥呼が魏に使いを送る。 魏の明帝は卑弥呼に〔親魏倭王〕金印紫綬、銅鏡100枚を与える。 卑弥呼没〔『三国志』魏志倭人伝〕
古墳時代	前期 3世紀中頃 266	前方後円墳の築造が本格的に始まる。 倭の女王が晋に使いを送る。〔『晋書』〕

※弥生時代前期から中期の年代観は、国立歴史民俗博物館が提唱する、放射性炭素年代測定法による年代にもとづく暦年較正年代です。()内の年代は従来の年代観です。

1. 弥生文化の黎明

弥生時代は、水稲耕作による稲作の出現をもって始まったと考えられます。山陰の弥生文化は、九州北部や山口県西部からやって来た水稲耕作、土器の製作技法、金属器の使用などといった外来の要素と、骨角器を作る技術や石器に使う石材、竪穴住居の構造、漆の利用などといった在来の縄文時代の要素を指摘することができます。弥生時代前期には、西川津遺跡や古浦遺跡、長瀬高浜遺跡など、海岸や沿岸部に遺跡が多く営まれます。これらの遺跡では木製品や石器、管玉の生産も行われ、(新しい技術で作られた土器である)弥生土器を用い、縄文時代とは異なる磨製石器(大陸系磨製石器)を使うようになりました。

2. 弥生文化の拡大

弥生時代前期末から中期にかけて、丘陵の上にも集落が営まれるようになり、田和山遺跡のように遺跡を取り囲む環壕を築く遺跡も現れます。また、この時期には青銅器の祭祀が盛んに行われるようになり、山陰の各地から青銅器が出土するようになります。なかでも神庭荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡から出土した青銅器は数が多く、山陰独自の特徴を持つものがあります。この時期には石で区画する墓(方形貼石墓)が現れ、四隅突出型墳丘墓へと発展します。

3. 王墓誕生

弥生時代後期には遺跡の数が増え、妻木晩田遺跡のように丘陵全体に広がる、大規模な遺跡も見られるようになります。四隅突出型墳丘墓は規模が大きくなり、西谷墳墓群のように「王墓」と呼ぶことのできる規模のものが現れます。この時期は朝鮮半島や九州北部との交流によって、鉄器やガラス製品などがもたらされるほか、吉備の特殊器台も出土しており、日本列島内外の広い地域との交流をうかがうことができます。

おわりに

山陰両県の弥生時代の遺跡は、道具や住まい、墓など当時の人々の生活に関連したさまざまな遺跡があり、遺跡から眺める景観とあわせて弥生時代をイメージすることができます。本書を片手に現地を訪ねていただき、当時の歴史に思いをはせていただければ幸いです。



石見地域の遺跡	02
出雲地域の遺跡	08
隠岐地域の遺跡	19
山陰の遺跡分布MAP	22
伯耆地域の遺跡	24
因幡地域の遺跡	36
弥生時代遺跡用語解説	44
図・写真を引用した主な文献	45
資料提供・協力機関	

石見地域の遺跡

石見地域は全体に山地が広がっており、標高100m前後の山が海岸付近にまでまっています。河口に形成された平野や、山間部の盆地の規模は小さく、山陰地方の東側と異なる景観を作っていました。その様子はこれまでに確認された遺跡にも現れています。

前期の遺跡は調査例が少なく、集落の様子がわかる遺跡は現在確認されていません。中期以降は遺跡の数が増え、集落跡や墳墓も確認されています。

地域性豊かな石見の土器

山陰地方の西側に位置する石見地域では、同じ島根県の出雲・隠岐や鳥取県と出土する弥生土器の様子が少し異なります。

大田市・邑智郡・江津市など石見東部から中部にかけては、広島県の弥生土器とよく似た土器が使われています。また、益田市・鹿足郡など石見西部では、山口県とよく似た形の土器が出土します。特に弥生時代後期の遺跡から出土する甕は、「く」の字状の口縁とどっしりした平底など、山陰の他の地域に見られない特徴的な形です。



益田市中小路遺跡出土甕

石見地方の弥生墳墓

この地方では、中期中葉から、墳丘の周りに石を貼った墓(貼石墓)が出現します。現在確認されているものは、いずれも10m前後の小規模なものです。

そのほか、墳丘や貼り石の無い墓もいくつか確認されています。しかし、これまでに発見された墳墓の数は僅かで、石見地域にはまだまだ多くの謎が残されています。



垂富遺跡(浜田市)の土坑墓群(後期)

古八幡付近遺跡(江津市)

日本海を一望する山の上に営まれた中期中葉の集落の跡です。集落の周りには深さ2mの溝が廻っていました。



水田ノ上遺跡(益田市)

圃場整備を行ったときに、銅戈の破片が発見されました。

細型銅戈は九州以外で見つかることはまれで、島根県内では唯一の出土品です。



おおかげいせき 大蔭遺跡 石見最古級の土器が出土

津和野の町を南に抜けると、道の駅「津和野温泉なごみの里」のある河岸段丘が広がっています。この平地が大蔭遺跡です。前期前葉の土器と縄文時代終わり頃の土器と一緒に出土しています。大陸遺跡は縄文時代の集落遺跡として知られており、古くから続く縄文のムラが、米作りを始める時期の貴重な資料です。



人蔭遺跡で出土した甕

【交通】JR津和野駅から車 車で5分

中国縦貫道六日市ICから車 車で45分

Information 情報 津和野町郷土館



大蔭遺跡出土品は津和野町郷土館で展示しています。

【開館時間】8:30~17:00

【入館料】大人 400円 中学生 300円 小学生 150円

【電話】0856-72-0300 【駐車場】なし

(津和野町)



まえたてやまいせき・おきばいせき 前立山遺跡・沖場遺跡 石見最大の弥生集落遺跡

前立山遺跡

高津川上流域の丘陵の上に営まれた後期の集落遺跡です。中国縦貫道建設に伴う発掘調査で、竪穴住居跡が23棟発見されました。



前立山遺跡の集落跡



沖場遺跡

前立山遺跡から約500m北東の河岸段丘上に営まれた、弥生時代後期後葉から埴埴時代前期にかけての集落遺跡です。

圃場整備に伴う発掘調査で竪穴住居跡が10棟以上発見されました。



沖場遺跡の集落跡

Information 情報 水源会館

前立山遺跡出土品は水源会館で展示しています。

【開館時間】9:00~17:00

【入館料】一般 300円 小学生 150円

小学生未満 無料

【電話】0856-77-1930



水源会館

(吉賀町)

せんこうじわきいせき 専光寺脇遺跡 日本最西端の貼石墓



益田川東岸の丘陵上に造られた中期中葉の墳墓群です。益田道路建設に伴う発掘調査で確認されました。1号墓は10×8mの四角い墳丘に丸い川原石を貼り付けた貼石墓で、現在国内で確認されている同様の貼石墓の中では、最も西に位置しており、注目されています。



(益田市)

周辺の遺跡

浜寄-地方遺跡

石見地域で唯一確認された弥生時代の水田跡です。



浜寄-地方遺跡の水田

わにいいせき
鰐石遺跡 弥生時代前期の土坑群

(浜田市)

周布川の河口近くに位置する前期中葉から中期初頭を中心とする遺跡です。32基の土坑(穴)の中から、土器や石器、拳大から人頭大の自然石などが多数出土しました。これらの土坑は墓や貯蔵穴(食料などを保管する穴)だったと考えられています。大陸系の磨製石器とともに、縄文時代以来の伝統的なつくりの斧や鎌などの石器が出土している点が注目されます。



かみじょういせき
上条遺跡 本州最西端の銅鐸出土地

(浜田市)

下府平野の東側の谷奥に位置する銅鐸出土地です。大正時代に壁土に使う土を掘っていて偶然発見されました。石見地域で3か所しか確認されていない青銅器出土地の1つで、平成10年に行われた発掘調査では、銅鐸を収めていたと考えられる穴が確認されました。



上条遺跡現地



上条遺跡出土銅鐸

【交通】山陰道浜田東ICから車で10分 説明板から徒歩15分

Information 情報
浜田市浜田郷土資料館

鰐石遺跡出土品(市指定)を展示しています。
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】無料
【電話】0855-23-6353
【アクセス】JR浜田駅より徒歩10分



周辺の遺跡
道休畑遺跡

鰐石遺跡東方の内田阿の丘陵には、後期に営まれた集落跡が確認されています。発掘調査により竪穴住居跡・掘立柱建物跡・貯蔵穴などが発見されました。



道休畑遺跡の集落跡

じゅうなんばらいちごうぼ
順庵原1号墓 元祖四隅突出型墳丘墓

県史跡

(邑南町)



最初に発見された四隅突出型墳丘墓

山陰地方の弥生時代といえば四隅突出型墳丘墓が有名ですが、昭和43年に最初に発見されたものが順庵原1号墓です。石が貼られ四隅が飛び出した特殊な墳丘や川原石のストーンサークルなどに当時の研究者は大いに悩まされたようです。後期前葉の墳墓で、大きさは11mとやや小型ですが、学史に残る遺跡として知られており、現在は史跡公園として整備されています。



【交通】道の駅「瑞穂」から車で2分(駐車場無し)
邑南町郷土館から徒歩15分

周辺の遺跡

順庵原B遺跡

順庵原1号墓の南東では同時期の集落跡が確認されています。40m離れた位置で発見された竪穴住居跡は径が約10mあり、石見地域では最大規模です。



調査時の竪穴住居跡

Information 情報

邑南町郷土館

順庵原1号墳や順庵原B遺跡の出土品が展示されています。そのほか、近隣の弥生時代後期から古墳時代の集落跡が確認された野田西遺跡の出土品も展示されており、遺跡と併せて見学されることをお勧めします。



【開館時間】9:00~17:00
【休館日】月曜日・水曜日・金曜日
【入館料】無料
【駐車場】約20台
【電話】0855-83-1580

ならはまいせき
波来浜遺跡 石見を代表する貼石墓群

(江津市)

日本海に面した砂丘の奥部に造られた墳墓群です。昭和44年に完形の土器が多数出土したことから存在が知られるようになりました。昭和46・47年に発掘調査が行われ、12基の墳墓が発見されました。そのうち2基は中期中葉に造られた、山陰地方最古級の貼石墓です。高さ0.9mの墳丘と扁平な貼石を持つ2号墓は、四隅突出型墳丘墓 弥生前夜の墳墓として注目されます。



発掘当時の遺跡の様子

Information 情報

現在の波来浜遺跡

現在遺跡は埋め戻されています。国道9号線から南側に入る踏道の近くに標柱があり、目印になっています。そこから松林を登った砂丘が波来浜遺跡です。



【交通】JRから浅利駅から車で5分
石見交通「波来浜」停留所から徒歩2分

かりやどうたくしゅつどち
仮屋銅鐸出土地 邑智郡の宝!

(邑南町)

大正時代に開墾をした際、偶然銅鐸が掘り出されました。向歯無山の麓の、「コパンバヤシ」と呼ばれる台地の一角で、銅鐸は2つ並んで埋まっていた。平成元年に行われた発掘調査では、銅鐸の埋納坑が調査され、新たに銅鐸の破片が出土しました。

遺跡の周辺には、弥生時代前期から古墳時代にかけての集落遺跡である余勢の原遺跡があり、谷を挟んだ向かいの山には、弥生時代後期から古墳時代にかけての墳墓が120基以上造られた中山墳墓群があります。

現在古代出雲歴史博物館で銅鐸のレプリカが常設展示されています。



【交通】邑南町役場から標柱まで車で10分
標柱から徒歩2分

かわむこういせき・ふるやしきいせき
川向遺跡・古屋敷遺跡 潮川流域の集落遺跡群

(大田市)

川向遺跡

石見東部の潮川流域では縄文時代前期から中世にかけての遺跡が多数確認されています。中でも川向遺跡は、弥生時代の様々な遺物が出土していることで注目されています。平成3年に河川改修に伴う発掘調査が行われ、前期から後期の土器が大量に出土しました。また、杭を円形に打ち込んだ貯木場が確認されたほか、未製品を含む石器が多数出しており、周辺に拠点的な集落が存在したと考えられます。



Information 情報

弥生時代の木工所

角杭を円形に打ち込んだ貯木場は、弥生時代中期の施設で、中から製作途中の木製農具や板材が出土しています。遺跡1帯は当時湿地帯だったことが判っており、木材の状態を安定させて加工しやすくするために水の中に漬けていたと考えられます。



古屋敷遺跡

川向遺跡から潮川を1km遡ったところに古屋敷遺跡があります。圃場整備に伴う発掘調査で前期の土坑が16基確認され、中から土器や石器が多数出しました。特に注目されるのは、土坑から出土した壺に入っていた米です。炭化して真っ黒になっていますが、県内でも極めて珍しい貴重な資料です。



おきじょういせき
沖丈遺跡 江の川流域の弥生集落と配石墓

(美郷町)

江の川中流域の代表的な弥生遺跡

沖丈遺跡は、弥生時代前期の配石墓と後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡がまとめて見つかったことで注目される遺跡です。前期の配石墓は縄文時代から見られる埋葬方法で、この地域の人々が弥生文化を受け入れて稲作を始めていく様子が思い起こされる資料です。

現在、配石墓の大部分は道路下に埋め戻されて保存されており、現地には説明版が設置されています。また役場と隣接する山村開発センターに10号墓のレプリカと土器が展示されています。



【交通】美郷町役場から車 で10分 ※現地に駐車スペース有り

Information 情報

石見地域の出土品紹介

- 凡例
- ① 名称
 - ② 出土遺跡
 - ③ 時期
 - ④ 展示している施設



- ① 勾玉
- ② 前立山遺跡
- ③ 弥生時代後期後葉
- ④ 古代出雲歴史博物館

前立山遺跡の中で、最も規模の大きい竪穴住居跡から出土しました。ヒスイ製で、全面が非常に丁寧に磨かれており頭部には溝が3本入っています。このような勾玉は「丁字頭勾玉」と呼ばれます。



- ① 石鎌
- ② 鱧石遺跡
- ③ 弥生時代前期
- ④ 浜田市浜田郷土資料館

稲作とともに伝わった石製の鎌で、収穫や除草などに使われたと考えられます。



- ① 弥生土器一括資料
- ② 波来浜遺跡
- ③ 弥生時代後期
- ④ 古代出雲歴史博物館



- ① 特殊土器
- ② 順庵原1号墓
- ③ 弥生時代後期前葉
- ④ 邑南町郷土館



- ① 管玉
- ② 沖丈遺跡
- ③ 弥生時代前期
- ④ 古代出雲歴史博物館

いろいろな種類の完形の弥生土器がまとめて出土したことにより、昭和45年に県の有形文化財に指定されました。後に墳墓群出土の十器も併せた、60点が指定されています。

順庵原1号墓の東隅突出部で出土した土器で、底部に脚が4つ付いた珍しい形です。木製の容器に同様の形をしたものがあることから、その形を模したものと考えられます。

右鉋で溝を入れてから刻る「施溝分割技法」が確立する以前に作られた、初期の管玉として注目される出土品です。

見どころ

石見東部を廻るおすすめコース

- 波来浜遺跡 40分
- 仮屋銅鐸出土地 5分
- 中山墳墓群 30分
- 順庵原1号墓 5分
- 邑南町郷土館 5分

出雲地域の遺跡

出雲には、大量の青銅器が発見された荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡、巨大な王墓が造営された西谷墳墓群や荒島墳墓群といった全国的にも有名な遺跡があります。これらの大規模な遺跡は、どのような背景で登場したのでしょうか？



原山遺跡

古代出雲歴史博物館の南に位置する前期を代表する遺跡で、島根の弥生時代研究で重要な位置を占めています。鹿の高甲骨製の管玉や石剣など珍しい遺物が出土しています。

文化交流

出雲は日本海を航路とする交易拠点の一つでした。西部には四絡(よつがね)遺跡群、東部には朝酌川遺跡群といった拠点集落が営まれ、九州や朝鮮半島、近畿や北陸、吉備などと交流し、多くの文物が行き来しました。この交流の中で、多くの富や知識を得ていきました。



西川津遺跡出土土笛

土笛は中国にルーツを持つ楽器で、全国の出土数の約7割が島根県で出土しています。



古志本郷遺跡出土青銅製三稜鎌

三稜鎌は断面が三角形の矢じりで、中国の「弩」という弓に使われた矢の先端に付けられました。



古浦遺跡出土朝鮮半島系無文土器

文字通り文様の無い土器で、朝鮮半島南部の土器です。弥生土器は無文土器の影響を受けて成立したと考えられています。



カンボウ遺跡出土の九州北部の土器

『魏志倭人伝』に登場する伊都国(福岡県の糸島半島付近)の土器の特徴があります。



青木遺跡出土分銅型土製品

吉備地方を中心とする瀬戸内に分布する遺物で、これらの地域との交流がうかがえます。



沢下遺跡出土ヒスイ製勾玉

ヒスイは主に北陸地方で産出される宝石で、透明感のある美しい緑色をします。

青銅器から四隅突出型墳丘墓へ

中期になると、水田や集落の開発が進み、村々で大規模な共同の祭祀を行うようになります。その代表的なものが、荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡です。この青銅器を使用した祭祀は、出雲では中期末～後期初頭を境に行われなくなり、代わりに青銅器の模様を転写した土器で祭祀を行なうようになります。やがて、この土器は王墓で執り行われる墳墓祭祀に組み込まれていきます。



荒神谷遺跡出土の青銅器



加茂岩倉遺跡出土の青銅器



青木遺跡出土の土器



西谷3号墓復元模型

出雲の西と東

出雲には四隅突出型墳丘墓が特に集中する地域が2つあります。一つは西谷墳墓群に代表される出雲平野で、もう一つは宮山墳墓群などが集中する安来市の荒島丘陵一帯です。これらの地域では、数ばかりでなく、墳丘の規模でも他の地域と比較して巨大な墳丘墓が築かれています。このことから、弥生時代後期になると、出雲の東西に「王」が現れ、それぞれの地域を治めていたと考えられます。



西谷3号墓



宮山4号墓



出雲西部の勢力

出雲東部の勢力



- 現地見学可能な遺跡
- 出土品が見学できる遺跡
- その他の遺跡

出雲地域南部の遺跡



神原II遺跡(飯南町)
銅鏝にも見られる「流水文」を施した土器が出土しました。



下鴨倉遺跡(奥出雲町)
刻目や多条沈線を施した端整な土器が出土しました。



垣ノ内遺跡(雲南市)
壇町式土器という広島県北部と関連のある土器が出土しました。



仏経山周辺の3遺跡

出雲平野を見下ろす仏経山は「出雲国風土記」に「神名火山」の一つとして記された山です。「かんなび」とは「神の隠れこもる」という意味です。仏経山の周辺には出雲を代表する3つの遺跡があります。



にしだにふんぼく 西谷墳墓群 出雲平野の王家の丘

国史跡

(出雲市)

斐伊川左岸の出雲平野を見渡すことができる丘陵上に位置します。1953年、西谷4号墓を開墾中に多量の土器が出土して、その存在が知られるようになりました。現在、6基の四隅突出型墳丘墓が確認されており、このうち4基は50mを超える巨大な墳墓です。発掘調査ではガラス製の勾玉、小玉、腕輪などが出土しました。なかでも注目されるのは、墓で行った祭祀に吉備や北陸地方の土器が使われていたことです。



【交通】JR出雲市駅から車で約10分



墳丘を飾る石

四隅突出型墳丘墓の外周は、石を巧みに配置して飾られています。特に墳丘の裾は、立石と敷石が規則的に組合せてあり、美しい階段状となっています。墳丘の規模が大きいものほど、裾の段の数も多くなっています。



棺内から出土した水銀朱

弥生時代や古墳時代には棺を彩る顔料として水銀朱が使われています。西谷3号墓でも棺内から大量の「朱」が出土しました。荒神谷遺跡の銅剣や加茂岩倉遺跡の銅鐸の一部にも塗られており、呪術的な意味が考えられます。

Information 情報 少し未来の話



出雲弥生の森博物館

現在、史跡の隣接地では博物館の整備が行なわれています。西谷墳墓群が楽しく学べる施設が完成する予定です。完成後は是非見学にいらしてください。

こうじんだにいせき 荒神谷遺跡 358本の銅剣

1984年7月、農道建設のための事前調査で前代未聞の大発見がありました。小さな谷間の南向きの急斜面から358本の銅剣が出土したのです。当時の全国の銅剣出土総数300本余を1か所で上回る発見でした。さらに翌年には、7m離れた地点から銅鐸6個と銅矛16本が出土しました。それまでは銅鐸と銅矛と一緒に出土することは無く、この発見も常識を覆す内容でした。



【交通】山陰道斐川ICから車で約5分
JR莊原駅から徒歩約50分



358本の銅剣

2.6m×1.5mの長方形の穴に、銅剣が刃を立てた状態で4列に、整然と並べられていました。出土した銅剣は中細形銅剣C類という種類で、出雲から多く出土することから、「出雲型銅剣」とも呼ばれます。なぜ、この地に大量の青銅器が埋められたのでしょうか？

荒神谷博物館

荒神谷の謎を面白く学べることができます。また、博物館の池には蓮が植えられ、開花の時期には見事な景色が広がります。
【開館時間】9:00~17:00まで
【入館料】一般200円 小中学生50円
【お問い合わせ】TEL 0853-72-9044
【ガイドあり】要予約

Information 情報 行ってみよう!



荒神さん

史跡公園には遺跡の名前の由来となった荒神さんが鎮座しています。この荒神さんは地域の守り神としてお祀りされています。

かもいわくらいせき 加茂岩倉遺跡 39個の銅鐸

国史跡

(雲南市)

狭長な谷の南向きの急斜面に位置します。1996年、農道建設のため、重機で斜面を掘削中に数個の銅鐸が発見されました。工事は即時中止され、発掘調査が行なわれました。調査では39個の銅鐸が確認されました。1つの遺跡から出土した銅鐸の数としては全国最多で、荒神谷遺跡に続く世紀の大発見であり、出雲の青銅器文化の奥深さを日本中に知らしめるものとなりました。



【交通】山陰道宍道ICから駐車場まで車で約15分
加茂駐車場から徒歩10分
雲南市民バス「加茂岩倉遺跡駐車場」停留所から徒歩10分



入れ子の銅鐸

出土状況から、発見された銅鐸はすべて、大きな銅鐸に小さな銅鐸が入られた「入れ子」の状況であったと考えられています。銅鐸にはシカ、カメ、トンボ、人の顔などのほか、荒神谷遺跡出土青銅器でもみられた「X」印が描かれたものもあります。



加茂岩倉遺跡ガイド

橋のような形をした建物で、休憩スペースから遺跡を眺めることもできます。
【開館時間】9:00~17:00まで
【入館料】無料
【お問い合わせ】TEL 0854-49-7885

Information 情報 見てみよう!



大岩

駐車場の近くに、見学者を迎えるような大きな岩があります。この「大岩」は長者が宝蔵として使っていた岩窟だという伝承があります。「岩倉」の地名の由来と言われています。他にも岩の中には金の鑄があるという伝承もある不思議な岩です。

まないいせき 真名井遺跡

ヒスイの勾玉と銅戈が出土
(出雲市)



遺跡口は命十神社が鎮座しています。



ヒスイは北陸から、銅戈は九州北部から運ばれてきました。

江戸時代に社殿造営のため大石を切り出す際に、ヒスイの勾玉と銅戈4本が出土したという記録にあります。



【交通】
古代出雲歴史博物館から車 徒歩で約2分
古代出雲歴史博物館から徒歩 徒歩で約7分

いのめどうくつせき 猪目洞窟遺跡

「黄泉の穴」に洞窟遺跡
(出雲市)

海蝕大洞穴の中から、縄文時代～古墳時代の遺物が良好な状態で出土しました。中でも南海諸島で採取されるゴホウラ貝で製作した腕輪は、文化交流を示す資料として注目されます。この洞窟は「出雲国風土記」には「黄泉の穴」と記載されています。



男性の右腕に6個もの腕輪が装着された状態で見つかりました。どのような人物だったのでしょうか？

【交通】出雲大社から車 徒歩で約30分

あおきいせき 青木遺跡

銅鐸と四隅突出型墳丘墓
(出雲市)

斐伊川下流の左岸に位置し、4基の四隅突出型墳丘墓を含む12基の墳丘墓が発見されました。墳丘墓の付近から人骨11体と犬の骨1体が出土しました。また、葬壇内で人骨の頭部付近から銅鐸の破片が出土しました。



現地には墳丘墓などの遺構が復元されています。



標高3.8mという低地に築造された四隅突出型墳丘墓です。



【突線紐式】銅鐸の「飾耳」の破片です。この型式の西限となりました。

【交通】一畑電鉄大寺駅から徒歩 徒歩で約5分
山陰道斐伊川ICから車 車で約20分



遺跡の近くには、斐伊川が流れ、遠くには仏蔵山が見えます。

やのいせき 矢野遺跡

出雲平野の大集落
(出雲市)



赤色顔料で彩色した土器が人量に見つかりました。
【交通】出雲ドームから徒歩 徒歩で約3分

出雲平野の中央に位置する大規模集落跡です。吉備から搬入された土器など他地域との交流を窺わせる遺物が出土しています。



もりいせきぐん 森遺跡群

神ノ川上流の大集落
(飯南町)



墓域から141個もの碧玉の管玉出土しました。

神戸川の左岸に位置する遺跡で、50棟以上の住居跡や、塀域が確認されています。住居跡から土器の他に斧、ヤリガンナ、鎌、鏃などの鉄器も出土しました。



【交通】道の駅原原から車 車で約20分

ひらいせき 平田遺跡

鉄器製作の工房跡
(雲南市)



斐伊川上流の右岸に位置し、直径9mの竪穴住居跡が1棟確認されました。竪穴住居には鍛冶炉があり、鉄器や鉄片が出土しました。

【交通】JR出雲三成駅から車 車で約15分

鉄器の素材は海外から持ち込まれたと考えられています。

よこたはちまんぐう 横田八幡宮

鎌倉時代に銅剣が出土
(奥出雲町)



横田盆地に位置する横田八幡宮では1281(弘安4)年に、社殿を移築した際、境内で銅剣が出土したと伝えられています。

【交通】JR出雲横田駅から車 車で約5分
JR出雲横田駅から徒歩 徒歩で約15分

出土した銅剣は古代出雲歴史博物館に展示されています。

きたはらまんこういせき 北原本郷遺跡

ダム湖の底に眠る集落
(雲南市)

斐伊川左岸の河岸段丘にある縄文時代～中世の複合遺跡です。弥生時代の遺構には、中期～後期の竪穴住居跡が10棟発見されました。継続して集落が営まれていたことがわかります。



建材が燃えおちた状態で発見されました。

袋状鉄斧などの鉄器も出土しました。大船の如くうねる斐伊川の傍らに集落が営まれていました。



【交通】JR出雲横田駅から車 車で約15分

周辺の遺跡

山持遺跡

出雲平野の北端に位置します。大量の土器、石器、木製品、鉄器、玉が出土していますが、なかでも吉備地方(現在の岡山県、広島県東部)の祭祀用の特殊な土器をまねて作った土器が目立ちます。



Information 情報 ちょっと一休み

美保北公園

中野美保遺跡の近くにあるこの公園には、四隅突出型墳丘墓をイメージしたオブジェがあります。このオブジェで古代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか？



たわやまいせき
田和山遺跡 全国に例の無い環壕遺跡



田和山遺跡全景

国史跡

(松江市)

前期から中期にかけての環壕集落遺跡です。環壕が3重に山頂を囲み、その外側で住居の跡が見つかったという点が特徴的で、全国でも他に類例の無い遺跡です。

確認された環壕は、長さが200mを越え、深さは大人の背丈ほどもあります。環壕の底から、3000個以上もの「つぶて石」と呼ばれる投石用の川原石が発掘されたことから、戦闘用の砦だったとする説があります。

また、山頂からは、後の神社祭祀に通じると考えられる柱穴群が確認されており、この遺跡が宗教施設だったとする説もあります。



田和山遺跡の環壕

整備された田和山遺跡



現在は、環壕や竪穴住居が復元されるなど、2000年前の姿が再現されており、弥生人の生活を体感することができます。山頂からは穴道湖のほか、神々がこもるとされる出雲の4つの「神名樋山」を見渡すことができます。

田和山遺跡の出土品

田和山遺跡では、一般的な土器のほかに、分銅形土製品・土玉・銅剣形石剣などの祭祀関係と思われる遺物や、鉄剣形石剣・石戈(せっか)・環状石斧(せきふ)・石鏃(せきぞく)などの武器類が出土しています。また、朝鮮半島の楽浪郡時代(紀元前108~313年)の硯と考えられる、薄い板状の石製品が2点出土しており注目されています。



【交通】
山陰道松江ランプから車で3分
駐車場有り
市営バス「市立病院」停留所から徒歩2分

周辺の遺跡

友田遺跡

田和山遺跡から約200m北東の丘陵にある宅地では、発掘調査で前期から中期の墳墓が26基確認されています。

田和山遺跡と同じ時代に造られた墓も多く、田和山遺跡の墓域と考えられます。遺体を埋葬した穴の中からは管玉や石鏃が多数出土しています。



友田遺跡の後期の墳墓群

あさくみがわいせきぐん
朝酌川遺跡群

島根県随一の大规模弥生遺跡

(松江市)

昭和9年に「堅町」で弥生土器が発見されて以来、朝酌川沿いの遺跡は古くから知られてきました。昭和14年には「タテチョウ遺跡」「西川津遺跡」と名付けられ、後にその中間で「原の前遺跡」が発見され、現在は朝酌川遺跡群として知られています。

昭和52年から22年間にわたって行われた河川改修に伴う発掘調査では、縄文時代から近現代に至る間の膨大な量と高い質を誇る遺物が出土し、全国の注目を集めました。



西川津遺跡の貝塚

弥生人の食生活

西川津遺跡の貝塚では弥生人の食べかすや狩猟具が大量に出土しました。弥生時代の多様な食生活がうかがえます。



鹿の骨から作られた釣り針(上は原材料)



西川津遺跡出土土器

川に流された土器

離れて出土した土器が接合することはよくありますが、朝酌川遺跡群では、なんと上流の西川津遺跡と1km以上離れた下流のタテチョウ遺跡で出土した土器が接合しました。



タテチョウ遺跡出土土器



公園整備された西川津遺跡

元祖玉作リムラ

西川津遺跡では、全国的にも早い時期に緑色の凝灰岩を使って細い管玉を造っていました。石鏃で溝を入れて割る効率的な技法は独特です。



【交通】
市営バス「川津」停留所から徒歩3分

ほりべだいいちいせき
堀部第1遺跡 開拓者達の墓

県史跡

(松江市)



堀部第1遺跡は前期(約2400年前)の珍しい配石墓が並んでいます。この墓は、稲作を始めた「開拓者たちの墓」と考えられ、全部で57基見つかリ、弧状に列をなしていました。一部が保存され福祉施設横に整備されるとともに、近くには配石墓の移築公園や古墳が整備されています。出土品は、松江市鹿島歴史民俗資料館で展示されています。



移築整備された配石墓
近くには園路整備された古墳群や、温泉施設もあります。

Information 情報

松江市鹿島歴史民俗資料館

堀部第1遺跡や松江市内で出土した、土器や木製品が多数展示されています。
【開館時間】9:00~17:00
【入館料】大人320円 大高生210円 小中生110円
【電話】0856-72-0300
駐車場有り



【交通】 市営バス「鹿島ふれあい館」停留所降車すぐ駐車場有り

周辺の遺跡

志谷奥遺跡

堀部遺跡から約3.2km西側の佐陀本郷の谷奥では、昭和48年に、銅剣と銅鐸がセットで出土しています。近畿地方を中心に分布する銅鐸と、九州地方を中心に分布する銅剣がいつしよに出土したことから、全国的に注目されました。

※出土品は古代出雲歴史博物館で展示しています。

稗田遺跡

堀部遺跡から約3.8km西側、日本海にほど近い水田で、弥生時代中期から後期の大量の木製品が出土しました。中には船の部材も含まれており、大海原へ漕ぎ出した弥生人の姿が偲べれます。



こたはいずもおうりょうのおかしゅうへんのふんぼくぐん 古代出雲王陵の丘周辺の墳墓群

国史跡

(安来市)

安来市の西部、荒島町周辺には弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大型墳墓が集中して造られています。山陰地方の弥生時代の代表的な墳墓として知られる四隅突出型墳丘墓も多数存在し、主なものは「古代出雲王陵の丘」として見学しやすく整備されています。



仲仙寺墳墓群

「四隅突出型墳丘墓」を全国に知らしめた、代表的な墳墓群です。飯梨川西岸の丘陵上に3基の墳墓が連なるように造られています。

現在は、神塚団地の中に、8号墓と9号墓が史跡公園として保存され、9号墓は復元整備されています。



出土した遺物は、安来市歴史資料館で常設展示されています。

【交通】
山陰道安来ICから車で10分
駐車場無し
JR荒島駅から徒歩15分



宮山4号墓

仲仙寺墳墓群の中でも北東に位置する「宮山支群」で唯一の弥生墳墓です。県内で最も新しい時期の四隅突出型墳丘墓で、突出部は極端に肥大化し、しゃもじ状になっています。現在は中学校裏山の史跡公園として整備されています。



Information 情報

安来市歴史資料館

荒島地域の墳墓群出土品や、市内の遺跡から出土した土器や石器が展示されています。道の駅「広瀬富田城」が隣にあります。
【開館時間】9:30～17:00
【入館料】大人 200円 大高生 100円 中小生 30円
【電話】0854-32-2767
【駐車場】有り



周辺の遺跡 塩津丘陵遺跡群

国道9号バイパスの建設工事に伴って行われた調査で、竹ヶ崎遺跡・柳遺跡などの出雲地方最大級の集落遺跡が確認されています。

集落を囲む丘陵の頂部には、この地域最大級の四隅突出型墳丘墓である塩津山6号墓・10号墓や四隅突出型墳丘墓の特徴を残す塩津山1号墳が造られています。



集落の調査状況

現在の遺跡群(中央は塩津山1号墳)

Information 情報

出雲地域の出土品紹介

凡例

- 1 名称
- 2 出土地
- 3 時期
- 4 展示している施設



- 1 人面付土器
- 2 西川津遺跡
- 3 弥生時代前期
- 4 古代出雲歴史博物館

もとは蓋が壺の一部に付けられていたものと考えられます。鶏冠(とさか)のような髪型から、鳥装のシャーマンをモデルにしたものとされています。



- 2 銅鐸
- 3 西川津遺跡
- 4 弥生時代中期
- 5 古代出雲歴史博物館

荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡などと異なり、集落近くの川の中から出土している点が注目されます。出土した時には新しい10円硬貨のような色でした。



- 3 銅鐸の舌
- 4 タテチョウ遺跡
- 5 弥生時代中期
- 6 古代出雲歴史博物館

朝陽川の弥生のムラで「聞く銅鐸」が使われていたことを示す資料です。石で作られており、上側の端には銅鐸に繋ぐための孔が開けられています。



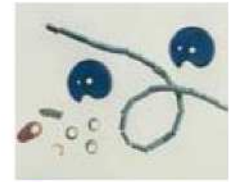
- 4 銅鐸形土製品
- 5 布田遺跡
- 6 弥生時代中期
- 7 古代出雲歴史博物館

残存高9.8cmと小型ですが、身がちゃんと中空になっており、「型持孔」を表現した小さな孔も開けられています。



- 5 建築部材
- 6 海上遺跡
- 7 弥生時代中期
- 8 出雲文化伝承館(一部)

写真中央の大型板材は、片割が壺の蓋のように加工されています。長さが約2.7mで、建物の破損後の可能性が考えられます。写真下の木製品は建築部材を固定するための木釘です。



- 6 玉類
- 7 西谷3号墓
- 8 弥生時代後期後葉
- 9 古代出雲歴史博物館

※ 島根大学考古学研究室所蔵
出雲平野の王墓である西谷3号墓の王妃を埋葬した穴から出土した玉類です。青い勾玉は当時非常に貴重だったガラスで作られています。



- 7 九州北部から運ばれた土器
- 8 中野清水遺跡
- 9 弥生時代後期
- 10 古代出雲歴史博物館

『魏志倭人伝』に登場する伊都国(福岡県前原市付近)で作られたとみられる土器で、出雲と伊都国の交流を示す資料です。



- 8 木製品
- 9 姫原西遺跡
- 10 弥生時代後期
- 11 古代出雲歴史博物館

姫原西遺跡では大量の木製容器や農耕具、祭祀具が出土しました。奥に見えるジョッキ型の木製品は日本海側を中心に出土するものです。



- 9 杵
- 10 姫原西遺跡
- 11 弥生時代後期
- 12 古代出雲歴史博物館

杵(いしゆみ)は大陸で使用された強力な武器で、姫原西遺跡出土品はその情報に基づいて作られた祭祀用具と考えられます。



- 10 絵画土器
- 11 白枝荒神遺跡
- 12 弥生時代中期中葉
- 13 出雲文化伝承館

壺の首に縦い線が描かれています。頭部が欠けていますが、輪の様子からサメを表現したと見られます。弥生人の海に対する思いを表した資料といえます。



- 11 石器
- 12 西川津遺跡
- 13 弥生時代前期～中期
- 14 古代出雲歴史博物館

西川津遺跡では、木を伐採したり加工する斧やノミ、収穫に使う石包丁や石鎌など様々な石器が大量に作られていました。これらの製品は周辺のムラにも配られていたと考えられます。



- 12 貝輪
- 13 古浦砂丘遺跡
- 14 弥生時代前期
- 15 松江市鹿島歴史民俗資料館

砂丘に埋葬された子爵の人身に着せられた状態で出土しました。古浦砂丘遺跡の出土品は山陰の弥生時代研究の貴重な資料として県の有形文化財に指定されています。

しまねけんりつこたいたいすもれきしはくぶつかん 島根県立古代出雲歴史博物館

県内の貴重な文化財を多数展示
(出雲市)



- 【交通】
- 一畑電車出雲大社駅から徒歩 7分
 - ※ JR 出雲市駅からは一畑電車乗り換え
 - 一畑バス 「古代出雲歴史博物館前」降車
 - 出雲空港から空港連絡バス 出雲大社行35分(出雲大社)



平成19年3月に出雲大社南東にオープンした博物館です。弥生時代については、総合展示「島根の人々の生活と交流」の中で詳しく解説しています。また、テーマ別展示「青銅器と金色の大刀」では、県内出土の弥生青銅器を一同に集め、その謎に迫ります。

- 【開館時間】9:00~18:00
 【入館料】常設展：一般600円・大学生400円・小中高生200円
 企画展：展示ごとに金額が異なります。
 ※年間パスポート(1,500円)有り
 【電話】0853-53-8600(代)
 【駐車場】P 一般244台 大型バス15台

見どころ

A. 出雲東部の大墳墓を巡るコース

安来市歴史資料館

15分

仲仙寺墳墓群

3分

宮山4号墓

3分

塩津山1号墳

5分

造山古墳群

B. 仏経山周辺の3遺跡を巡るコース

古代出雲歴史博物館

30分

西谷墳墓群

15分

荒神谷遺跡

15分

加茂岩倉遺跡



隠岐地域の遺跡

黒曜石の島「隠岐諸島」には、少ないながらも実にバラエティに富んだ弥生遺跡が知られています。中には、日本海を越え本土から運ばれてきたことを示す土器などもあり、当時の人々が海を渡っていった様子が偲ばれます。



つきないせき 月無遺跡 大量の遺物が出土 (隠岐の島町)

河川改修に伴って、木製品や石器類が出土しました。木製品の中には、平鍬や鋤が見られる他、石器にも石包丁などが含まれていました。水田の畔に打ち込み矢板も多数確認されていることから、八尾川流域の平野で早くから稲作が行われていたことが確かめられました。現在は河川になってしまいましたが、周囲の平野が弥生時代から耕作されていた様子が想像されます。

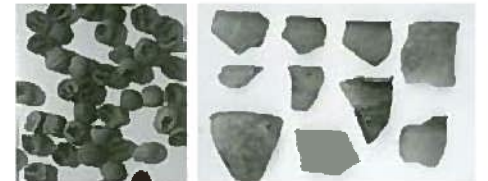


【交通】西郷港から 徒歩 30分・車 5分

Information 情報

隠岐地域の弥生時代

隠岐諸島では昭和30年代までは弥生時代の遺跡が存在しないと考える研究者もいたそうです。しかし、昭和41年に河川改修に伴い月無遺跡が発見されました。月無遺跡では土器類の他、木製農耕具や石包丁などの稲作に伴う遺物が出土し注目を集めて以後、弥生時代の遺跡数は着実に増加しています。出土した遺物には竹田遺跡(海士町)の銅剣や、水鳥のスタンプが押された大城遺跡(隠岐の島町)の土器など、バラエティに富んでいます。また、隠岐地域の遺跡から出土する遺物には、隠岐地域で作られたものの他、本土との交流を示すものも多く含まれています。



月無遺跡の土器とくまみ河川改修工事に伴って多量の遺物が出土した。特に、農耕具が多く含まれていたことが注目される。

おおしろいせき 大城遺跡 隠岐にもあった四隅突出型墳丘墓 (隠岐の島町)

西郷湾を見下ろす運動公園横の丘陵から隠岐初の四隅突出型墳丘墓が発見されました。長さが20m近くあり、突出部がゆるやかに突き出た様子がわかります。墳丘の中央には木棺をすえた墓穴があり、管玉と弥生土器が出土しました。隠岐では弥生時代の墓は今まで見つかっておらず、大変注目されます。また、かつてランド造成中にスタンプで模様をつけた弥生土器が見つかっており、大城遺跡の四隅突出型墳丘墓に伴う可能性があります。



大城遺跡の四隅突出型墳丘墓

【交通】西郷港から 徒歩 20分・車 5分

たけだいせき・さいとうしいせき
竹田遺跡・西塔寺遺跡

(海士町)

竹田遺跡 銅剣が出土

海士平野を見下ろす緩やかな丘上から斜面にかけての遺跡です。

1966年に地元の中学生在が偶然に銅剣を発見。その後の発掘調査で多量の土器などが出土しています。

銅剣は、祭場か墓域を画した長さ13m以上の溝状遺構に入っていた可能性が高まりました。溝からは後期の土器が出土しており、単独で発見されることが多い弥生青銅器の研究に大きな資料をもたらしました。



竹田遺跡、西塔寺遺跡の出土品は後鳥羽院資料館で展示されています。



【交通】菱浦港から 車 で10分

西塔寺遺跡 環濠発見!

西塔寺遺跡は、弥生時代の集落跡と考えられる遺跡です。遺跡の周囲では断面V字形の堀が見つかり、環濠集落だったことが判っています。弥生時代の後期には戦いに備えたと言われる環濠集落が山陰各地に作られますが、隠岐諸島でも同様のものがあつたことが判りました。堀の内部からは中期から後期の土器が大量に出土しています。



西塔寺遺跡付近遠景



西塔寺遺跡の環濠

【交通】菱浦港から 車 で10分

ひがしふねいせき
東船遺跡 隠岐空港の遺跡
(隠岐の島町)

隠岐の空の玄関口隠岐空港のジェット化工事では多くの遺跡が発掘調査されましたが、東船遺跡もその一つです。東船遺跡からは3棟の竪穴住居跡、土坑、溝などが発見されました。隠岐地域での竪穴住居跡検出例は少なく、貴重な資料となっています。

現地は既に空港の敷地となっています。



へいごいせき
兵庫遺跡 水に関わる祭祀遺跡
(西ノ島町)

兵庫遺跡は古墳時代の祭祀遺跡として著名な遺跡ですが、出土した遺物には弥生時代のものも含まれています。

山の麓に位置し、今でも水が湧く泉と水路からなり、多量の土器や祭祀具などが出土しました。遺跡の後ろには愛宕山と呼ばれる三角形の美しい山があり、この山と泉が神聖な場所として意識されていたのかも知れません。出土した遺物には、魚の骨や歯が多く含まれており、中でもコブダイが多く含まれています。



【交通】別府港から 車 で10分

Information 情報

隠岐地域の出土品紹介

- 凡例
- ① 名称
 - ② 出土地
 - ③ 時期
 - ④ 展示している施設

- ① 銅剣
- ② 竹田遺跡
- ③ 弥生時代後期
- ④ 後鳥羽院資料館



隠岐唯一の銅剣が出土しました(県指定文化財)。1966年に地元の中学生在が偶然に発見しましたが、先端と周囲を欠いています。全長50cm前後に復元されます。



- ① スタンプ文土器
- ② 大城遺跡
- ③ 弥生時代後期
- ④ 隠岐郷土館

1976年に大城遺跡で発見された土器は、肩部に渦巻きと水鳥の文様のスタンプを交互に押しつけた珍しいものです。水鳥は精霊を運ぶ鳥と考えられます。

- ① 弥生土器
- ② 東船遺跡
- ③ 弥生時代後期
- ④ 島根県埋蔵文化財調査センター



東船遺跡の弥生土器は、オレンジ色で厚みのあるものが一般的です。しかし、2号住居跡からは出土した土器の中には、白っぽく薄手の土器が含まれていました。この土器は、同じ頃の出雲地方の土器と同じ特徴があり、日本海を越えて隠岐に運ばれてきたと考えられます。



- ① 木製鏃
- ② 月無遺跡
- ③ 弥生時代中期

見どころ

A. 隠岐の島町を廻るコース

- 西郷港
- ≡ 30分
- ≡ 7分 → 10分
- 月無遺跡
- ≡ 15分
- 大城遺跡
- ≡ 40分
- 隠岐郷土館

B. 海士町を廻るコース

- 菱浦港
- ≡ 10分
- 西塔寺遺跡
- ≡ 20分
- 竹田遺跡
- ≡ 10分
- 後鳥羽院資料館

しまね

P2

石見の弥生遺跡

- 3P ① 大蔭遺跡 ② 前立山遺跡 ③ 沖場遺跡 ④ 専光寺脇遺跡
- 4P ⑤ 鱒石遺跡 ⑥ 上条遺跡 ⑦ 波来浜遺跡
- 5P ⑧ 順庵原1号墓 ⑨ 仮屋銅鐸出土地
- 6P ⑩ 川向遺跡 ⑪ 古屋敷遺跡 ⑫ 沖丈遺跡

P8

出雲の弥生遺跡

- 10P ① 西谷墳墓群
- 11P ② 荒神谷遺跡 ③ 加茂岩倉遺跡
- 12P ④ 真名井遺跡 ⑤ 猪目洞窟遺跡 ⑥ 青木遺跡
- 13P ⑦ 矢野遺跡 ⑧ 森遺跡群 ⑨ 平田遺跡 ⑩ 横田八幡宮 ⑪ 北原本郷遺跡
- 14P ⑫ 田和山遺跡
- 15P ⑬ 朝酌川遺跡群 ⑭ 堀部第1遺跡
- 16P ⑮ 仲仙寺墳墓群 ⑯ 宮山4号墓

P19

隠岐の弥生遺跡

- 19P ① 月無遺跡 ② 大城遺跡
- 20P ③ 竹田遺跡・西塔寺遺跡 ④ 東船遺跡 ⑤ 兵庫遺跡



山陰の遺跡分布MAP



とっとり

P24

伯耆の弥生遺跡

- ① 妻木晩田遺跡 25P
- ② 稻吉角田遺跡 ③ 尾高浅山遺跡 ④ 目久美遺跡 26P
- ⑤ 福市遺跡 ⑥ 青木遺跡 27P
- ⑦ 茶畑遺跡群 ⑧ 長山馬籠遺跡 ⑨ 越敷山遺跡 28P
- ⑩ 長瀬高浜遺跡 ⑪ 宮内第1遺跡 29P
- ⑫ 阿弥大寺墳丘墓群 ⑬ 中峯遺跡 ⑭ 後中尾遺跡 30P
- ⑮ 大谷・後口谷墳丘墓群
- ⑯ 大山池遺跡 ⑰ 丸山遺跡 ⑱ 梅田堂峯遺跡 ⑲ 西高江遺跡 31P
- ⑳ 笠見第3遺跡

P36

因幡の弥生遺跡

- ① 青谷上地遺跡 37P
- ② 新井三嶋谷1号墳丘墓 ③ 西柱見墳丘墓 ④ 布勢遺跡 39P
- ⑤ 岩吉遺跡
- ⑥ 糸谷1号墳丘墓 ⑦ 西大路土居遺跡 ⑧ 万代寺遺跡 40P
- ⑨ 智頭枕田遺跡

伯耆地域の遺跡

伯耆地域では、日本海の沿岸部に点在する潟湖や内海の近く、または砂丘微高地の上に弥生時代前期の村が営まれます。前期の終わり頃には、平野部に面した丘陵上に環濠を築く集落も現れました。環濠は、水稲耕作の技術とともに朝鮮半島から北部九州に伝えられたものです。環濠を伴う村の出現は、この地域に農耕を生活の基盤とする本格的な集落が成立したことを示すものです。

中期から後期には、大山山麓の緩やかな丘陵上にたくさんの村跡が営まれました。そして、魏志倭人伝に描かれた倭人の時代-2世紀頃-には、国史跡妻木晩田遺跡に代表される非常に大規模な村が大山山麓に現れます。また越敷山遺跡群や笠見第3遺跡の周辺には、妻木晩田遺跡に匹敵する村があったと考えられています。後期の初め頃には、こうした動きと足並みをそろえるように四隅突

出型や方形の墳丘墓が大山山麓の各所に造営されはじめます。墳丘墓の出現は、この地域における有力者層の台頭、そして集団社会の変化を示す重要な現象と考えられます。

また、大山山麓で見つかる弥生時代後期の村跡からは、しばしば焼失した竪穴住居跡がたくさん見つかっています。焼失住居跡からは炭化した建築材が出土します。屋根を覆っていたとみられるカヤの上に、焼けた土がのっていることもあり、当時、土屋根の住居が存在したと考えられています。妻木晩田遺跡に復元されている竪穴住居には、焼失住居から出土する炭化した建築部材等の調査研究成果が活かされているのです。

- 現地見学可能な遺跡
- 出土品が見学できる遺跡
- その他の遺跡



むきぼんだいせき 妻木晩田遺跡 甦る弥生の国邑

国史跡

(米子市・大山町)



大山北西麓の丘陵に立地する全国最大規模を誇る弥生時代後半期の集落跡。弥生時代中期にはじまり、後期後半(2世紀後半)に集落規模は最盛期を迎えます。往時170ha以上の範囲に居住域が点在していたと考えられています。弥生時代の歴史を考えると極めて重要な遺跡として、現在約152haが国の史跡に指定されています。遺跡の中に洞ノ原、妻木山、松尾頭、松尾城、妻木新山、仙谷という地区があり、整備を終えた洞ノ原地区が一般に公開されています。

山陰道「淀江・大山IC」から東を望むと、小高い丘の上に茅を葺いた2棟の高床倉庫が見えます。そこが洞ノ原地区西側丘陵です。ここには2世紀後半の竪穴住居や高床倉庫等が復元されています。洞ノ原地区から見た雄大な日本海の景観は、「倭人伝」の冒頭に記された「倭人は山島に依りて国邑をなす」という一文を彷彿とさせます。

また、洞ノ原地区西側丘陵の背後にある東側丘陵には1世紀後半から2世紀前半にかけて、洞ノ原墳墓群が造営されています。大山山麓最古級の四隅突出型墳丘墓等、大小25基からなる墳墓群には、他に類例のない1辺3m未満の極小形の四隅突出型墳丘墓が含まれています。

目の前に広がる日本海のパノラマを背景に、現在に甦った「弥生の国邑」の散策をお楽しみください。また、妻木晩田遺跡ではボランティアガイドさんによる遺跡案内も行っています。是非ともご利用ください。

見どころ

展示室

妻木晩田遺跡事務所には展示室が併設されています。妻木晩田遺跡の主な出土品を展示しており、淀江平野や妻木晩田遺跡の歴史を知ることができます。

竪穴住居跡の展示

妻木山地区にある覆屋には、3棟の竪穴住居跡が発掘当時の状態で保存されています。洞ノ原地区の復元竪穴住居と併せて、こちらもご覧ください。



復元された竪穴住居と掘立住建物(洞ノ原地区)



洞ノ原墳墓群



覆屋の中に保存された竪穴住居跡(妻木山地区)



絵画土器(松尾頭地区出土)

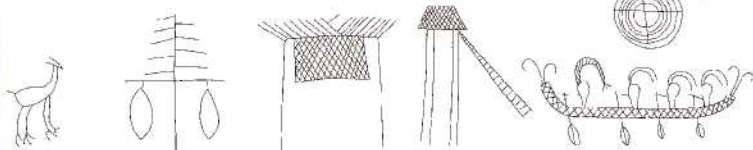
Information 情報

妻木晩田遺跡事務所

【開場時間】 9:00~17:00
 (入場は16:30まで)
 【休館日】 年末年始(12月29日~1月3日)のみ
 【お問い合わせ】
 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4
 電話0859-37-4000

いなよしすみだいせき
稲吉角田遺跡 弥生の世界観が描かれた土器

稲吉角田遺跡は、弥生の絵画土器(県指定保護文化財)が出土したことで著名な遺跡です。大きな壺の頸部をキャンバスに、頭に大きな羽根飾りをつけた人達が船を漕ぐ姿、楼観を想わせる高層建築、銅鐸がつり下げられた木、たたずむ鹿が、まるで絵巻物のように描かれています。また、近くにある西中尾7号墳(日古塚)からは右手に桶をもつ武人を描いた絵画土器が出土しています。この武人の頭に描かれた三角形の大きな頭飾りは、妻木晩田遺跡の松尾頭地区で出土した「竪穴住居の前に立つ人物」の頭飾りと共通しています。2つの人物像は淀江湯周辺に暮らした弥生人達の祭りの装いを今に伝えています。



おだかあざやまいせき
尾高浅山遺跡 3重の環濠に囲まれた村と四隅突出型墳丘墓



日野川東岸の平野をみおろす小丘陵上にある遺跡です。小さな谷を挟み、北側の丘陵に3重の環濠に囲まれた居住域、南側の丘陵には四隅突出型墳丘墓があります。いずれも後期の初め頃に営まれたものです。3重の環濠に囲まれた丘陵頂部からは竪穴住居跡や川原石を積み上げた遺構が発見されました。この川原石は武器としても使われた「つぶて石」ではないかと考えられます。また、四隅突出型墳丘墓は妻木晩田遺跡の洞ノ原墳墓群と並ぶ、この地域最古級の墳丘墓です。尾高浅山遺跡の環濠と墳墓は、1世紀後半の社会環境、そして大山山麓地域における有力者層の出現を教えてください。現地に入り込みはできませんが、県道53号線から大山を背景にした遺跡の全景をご覧ください。



積み上げられた「つぶて石」

めくみいせき
目久美遺跡 水田跡が発見された集落跡



縄文時代前期以来、長い歴史をもつ米子平野の拠点的な集落遺跡です。弥生時代の主な遺構に水田跡があります。水田には弥生人の足跡が点々と残っていました。木製の農具なども多数出土しています。弥生時代後期中頃に大水害によって埋没した大水路も見つかっています。幅4m、深さ2m、長さ数百mにわたって続くこの水路は水田に水を運ぶために作られたものと考えられます。なお、このときの水害で大きなダメージを受けた目久美遺跡は長い集落の歴史に幕を降ろします。出土品は、現在、福市考古資料館や山陰歴史館に展示してあります。



水田跡

(米子市淀江町)

Information 情報

淀江歴史民俗資料館



左に紹介している稲吉角田遺跡出土の絵画土器のほか、史跡上淀庵寺跡の壁画など、淀江町内でみついている文化財を中心に展示しています。

【お問い合わせ】鳥取県米子市淀江町福岡979-1
電話0859-56-3316



Information 情報

福市考古資料館



福市遺跡・青木遺跡の出土品を中心に、尾高浅山遺跡など米子市内で出土した貴重な考古資料を展示しています。

【開館時間】9:30～17:00

【入館料】無料

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取県米子市福市461-20
電話(0859)26-3784



ふくいちいせき
福市遺跡 市民憩いの史跡公園

国史跡

(米子市)



復元竪穴住居

米子市の南部に広がる丘陵地帯は古くから人々の生活の舞台として利用されており、数多くの遺跡がこれまでに確認されています。

福市遺跡は、日野川と法勝寺川の合流地点にある福市丘陵全面に広がる集落遺跡です。住宅団地等の造成が計画され、昭和40年代に大規模な発掘調査が行われました。その結果、弥生時代後期(2世紀)から古墳時代後期(5世紀)頃の竪穴住居跡や墳墓が多数発見され、山陰地方の集落の発展を考える上で極めて貴重な遺跡として注目を集めました。遺跡の一部は国指定史跡として保存活用されています。

現在、福市遺跡公園として整備された遺跡には、竪穴住居等が復元展示してあります。緑も豊かで、桜、ツツジ、菖蒲の花も楽しめる市民憩いの公園として親しまれています。

公園の入口にある福市考古資料館には、福市遺跡や、隣接する青木遺跡の出土品をはじめ、目久美遺跡の縄文土器、陰田遺跡の古代の遺物等々が展示解説してあります。米子市の歴史を詳しく知りたい方は、まずはここに訪れ、貴重な出土品を見学してください。

あおきいせき
青木遺跡 多くの掘立柱建物跡が見つかった弥生のニュータウン

国史跡

(米子市)



多数みつかった掘立柱建物跡

福市遺跡の南側に接する大規模な集落遺跡です。青木丘陵と呼ばれる標高40m程の緩やかな丘陵には縄文時代晩期から中世にいたる様々な時代の遺跡が存在しています。福市遺跡同様、住宅団地等の大規模な造成が計画され、昭和50年代に40haにもおよぶ遺跡の調査が行われました。その結果、弥生時代中期から奈良時代の人々が生活した竪穴住居跡約130棟、掘立柱建物跡240棟をはじめ、縄文時代の落と穴や古墳等、貴重な遺構がたくさん見つかりました。

中でも弥生時代中後期の竪穴住居跡とともに見つかった掘立柱建物跡は、当時、他にあまり類例のない貴重な発見でした。そして、弥生時代中期から後期、そして古墳時代、奈良時代へと移り変わる様子が、実際に一つの遺跡でたどれる西日本最大規模の集落跡として多くの人々に注目されました。

現在、遺跡の一部が国の史跡に指定され、団地の中に史跡公園として整備されています。

ちやばたいせきぐん 茶畑遺跡群 独立棟特柱建物が発見された中期の集落跡

(大山町)



大山山麓を代表する弥生時代中期の集落跡です。特に茶畑山道遺跡では、大型の掘立柱建物跡が多数見つかっています。特に注目されるのは、独立棟特柱をもつ遺跡最大の掘立柱建物跡です。建物の正面には、瀬戸内系とみられる土器や赤彩された土器が出土しています。また、周辺から銅鐸形土製品も出土しました。祭祀に関連した遺物を伴うことから、この建物跡は集落を象徴する建物跡だったと考えられます。調査後、遺跡は埋め戻され、現地保存されています。



独立棟特柱をもつ大型掘立柱建物跡(茶畑山道遺跡)

ながやまごめいせき 長山馬籠遺跡 鳥取最大の建物跡 (伯耆町)

日野川の中上流域を代表する弥生時代中期の集落跡です。ここでは鳥取県最大の掘立柱建物跡が見つかっています。この大型建物跡の特徴は建物の片側に庇があることです。また、建物の内部にあったと考えられる土坑から、赤彩された壺や高坏が出土しました。また、隣接する大型の竪穴住居跡からは、漆塗の壺や高坏、船載品とみられる鉄斧等が出土しています。山間地域の拠点として営まれた村だったと考えられます。



こしきさんいせき 越敷山遺跡 日野川左岸の大規模集落 (伯耆町)

伯耆町と南部町にまたがる越敷山に広がる弥生時代後期の集落遺跡。妻木晩田遺跡と同時代に営まれた山陰地方を代表する大規模集落です。約150棟の竪穴住居跡をはじめ、たくさんの建物跡が見つかっています。この集落跡に伴う墳丘墓等ははまだ見つかっていませんが、大量の鉄器を保有していることから、この地域の拠点的な集落であったと考えられます。



ながせたかはまいせき 長瀬高浜遺跡 日本最古級の玉作り工房跡

(湯梨浜町)

湯梨浜町の砂丘地帯に位置する長瀬高浜遺跡は、古墳時代の埴輪群が見つかったことで有名な遺跡ですが、弥生時代でも注目されるものが見つかっています。

昭和56年の調査で見つかった弥生時代前期の竪穴住居跡2棟のうち1棟から、管玉など玉製品の作りかけの素材や石材のカスが多量にみつかり、日本最古級の玉作りの跡として注目を集めました。

湯梨浜町歴史民俗資料館では、長瀬高浜で行われた玉作りの過程がわかるように、素材から製品まで展示してあります。



玉作り工房と考えられる竪穴住居跡(SH113)



玉作りの過程がわかる展示



Information 情報

湯梨浜町羽合歴史民俗資料館

国指定重要文化財である長瀬高浜遺跡出土埴輪をはじめ、湯梨浜町で出土した遺物を展示しています。



埴輪家を模した建物も魅力

【開館時間】9:00～16:30

【入館料】大人100円

【休館日】月曜、祝日、年末年始

【お問い合わせ】湯梨浜町久留19-1

(0858)35-3111

主な弥生時代展示品

- 長瀬高浜遺跡出土玉製品
- 長瀬高浜遺跡出土土器



長瀬高浜遺跡出土埴輪群

みやうちだいいちいせき 宮内第1遺跡 弥生時代最長の大刀

(湯梨浜町)



墳丘墓を空からみた様子

東郷池を望む丘陵尾根上に立地する遺跡で、四隅突出型墳丘墓1基を含む4基の墳丘墓が見つかっています。

四隅突出型墳丘墓である宮内1号墓には、鉄剣(第1主体部)、鉄刀(第2主体部)、管玉(第3主体部)が副葬されていました。

このうち鉄剣・鉄刀はそれぞれ現在日本でみつかった弥生時代鉄剣・鉄刀では最長のもです。

外国製(中国・朝鮮半島製)と考えられるこれらの鉄製武器は、宮内1号墓に葬られた人物の性格を想像させてくれます。

このうち鉄刀は、鳥取県埋蔵文化財センターでみることができます。



弥生時代最長の鉄刀(宮内第1号墳丘墓第2主体部:全長94.5cm)



出土した状況から、管玉は被葬者の首にかけられていたものと考えられます。

見どころ

大山山麓の弥生集落を巡るおすすめコース

福市考古資料館

≡ 2分

福市遺跡

≡ 10分

青木遺跡

≡ 30分

妻木晩田遺跡

福市遺跡・青木遺跡を中心に、米子市内の遺跡からみつかった遺物を展示しています。まずはここで基本的な知識を勉強しよう!!



ボランティアガイドさんにガイドをお願いしてみよう! 遺跡の説明といっしょに楽しいお話が聞けるかも。



Information 情報

山陰歴史館



主な弥生時代展示品は日久美遺跡出土木製品。

旧米子市役所を利用した歴史資料館です。

【開館時間】9:30～18:00 【入館料】無料

【休館日】火曜日、祝日の翌日、年末年始

【お問い合わせ】米子市中町20

電話0859-22-7161



あみだいじふんきゅうぼくぐん
阿弥大寺墳丘墓群 同府川流域を支配した首長の墓

国史跡

(倉吉市)

天神川の支流・国府川の河岸段丘上に築かれた弥生後期後半の四隅突出型墳丘墓群です。1〜3号墓の3基が東西に並列して築かれ、いずれも墳丘の南側だけ残っていました。墳丘の斜面と突出部には30cm角程の川原石が貼られ、特に突出部は稜線上に川原石が一列に並べ置かれていました。最も大きい1号墓は突出部を含めると東西17.8m、墳丘の残存高0.8mで、墳丘外の溝の中に大小12基の土塚を伴います。

現在は埋め戻して保存されており、出土品(県指定保護文化財)は倉吉博物館に展示されています。



なかにいせき
中峯遺跡 珍しい鳥形のスタンプ文土器

(倉吉市)

久米ヶ原丘陵の東辺でみつかった弥生〜奈良時代の集落跡です。調査地から150m離れた畑で、鳥形のスタンプ文を施した壺の破片が発見されています。



鳥形のスタンプ文土器

うしろなかおいせき
後中尾遺跡 弥生中期後半の環壕集落

(倉吉市)

高城山から東へ延びる舌状台地でみつかった弥生時代中期後半の環壕集落です。台地の基部と先端部に100mの間隔を開けて幅1m、深さ1mで断面V字状の溝を掘り、集落を囲っていました。



おおたにうしろだにふんきゅうぼくぐん
大谷・後口谷墳丘墓群 吉備と交流した有力者の墓

(倉吉市)



墳丘墓に供えられた土器

四王寺山南西の丘陵上に築かれた弥生後期後半の墳丘墓です。2基みつかっていて、どちらも四隅部分を掘り残して四辺に溝を設けた方形墳丘墓です。1号墓は(16×12m)、2号墓は(9×7m)で、1号→2号の順に造られました。墳頂部と周溝から土器が出土しましたが副葬品はありませんでした。この丘陵下には弥生時代中期〜古墳時代前期の集落がみつかり、この地域の有力者の墓と考えられます。

出土品のなかに吉備地方(岡山県)から持ち運ばれた大型壺が含まれており、倉吉博物館で見ることができます。



だいせんいけいせき
大山池遺跡 独立棟持柱や底をもつ大型建物

(倉吉市関金町)

天神野台地の大山池周辺に広がる縄文〜平安時代の複合遺跡です。弥生時代中期後半の集落跡が調査され、独立棟持柱や底をもつ掘立柱建物跡が見つかりました。

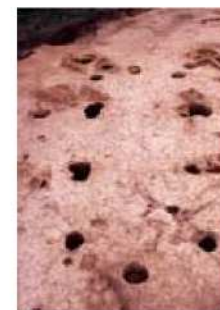


うめだかやういせき
梅田萱峯遺跡 県内最古級の墳丘墓

(琴浦町)

甲川右岸の低丘陵上に立地する弥生時代中期後半から後期前半にかけての集落跡です。集落は浅い谷を挟んで二つの尾根に広がり、西側の尾根では竪穴住居や貯蔵穴に木棺墓・土塚墓などが見つかりました。東側の尾根には独立棟持柱をもつ掘立柱建物や墳丘墓が築かれており、集落の特別な場所だったようです。

墳丘墓は県内最古級で、方形の墳丘斜面に石が貼られています。墳丘上には柱穴が主体部を囲んで4つ見付き、墓上祭祀の施設があったことがわかりました。



独立棟持柱をもつ掘立柱建物跡



鳥取県内最古級の墳丘墓

まるやまいせき
丸山遺跡 山間部の要衝をおさえた集落

(三朝町)

三徳川と加茂川の合流点付近にある段丘上に立地する集落跡です。弥生時代中期〜古墳時代前期の竪穴住居跡45棟、貯蔵穴を含む土坑35基などがみつかりました。



にしたかえいせき
西高江遺跡 宝石職人の集落

(北栄町)

弥生時代中期末〜後期初頭の集落跡で、見つかった竪穴住居跡8棟中7棟から砥石と多量の水晶の破片が見つかり、弥生時代の宝石職人が住んだ集落と考えられています。



かさみだいさんいせき
笠見第3遺跡 大山東麓の拠点集落

(琴浦町)

田越の丘陵上に弥生時代中期末から古墳時代後期まで営まれた集落跡で、弥生時代の竪穴住居跡136棟、掘立柱建物跡10棟などがみつかりました。弥生時代後期には赤色顔料や緑色凝灰岩製玉類の生産を行い、鉄器やガラス玉も多数保有するなど、地域の拠点的な集落であったと考えられます。



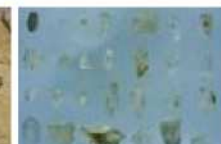
Information 情報

周辺の遺跡

琴浦町田越周辺の丘陵には、碧玉や水晶の玉作りを行った集落跡・久蔵峰北遺跡、溝で区画された土塚墓群が見つかった井岡地中ソネ遺跡など弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡が数多く分布しています。



井岡地中ソネ遺跡土塚墓群



久蔵峰北遺跡出土水晶製玉類

Information 情報

伯耆地域の出土品紹介

- 凡例
 ① 名称
 ② 出土遺跡
 ③ 時期
 ④ 展示している施設



- ① 土器
 ② 長瀬高浜遺跡
 ③ 弥生時代前期
 ④ 湯梨浜町羽合歴史民俗資料館



- ① 絵画土器
 ② 稲吉角田遺跡
 ③ 弥生時代中期
 ④ 淀江歴史民俗博物館



- ① 楯
 ② 目久美遺跡
 ③ 弥生時代中期
 ④ 山陰歴史館



- ① 土笛
 ② 目久美遺跡
 ③ 弥生時代前期
 ④ 福市考古資料館



- ① ガラス製の玉類
 ② 吉谷上ノ原山遺跡
 ③ 弥生時代後期
 ④ 福市考古資料館



- ① 分銅型土製品
 ② 阿弥大寺遺跡
 ③ 弥生時代後期
 ④ 倉吉博物館



- ① 田角
 ② 池ノ内遺跡
 ③ 弥生時代中期
 ④ 山陰歴史館



- ① 石剣
 ② 東宗像遺跡
 ③ 弥生時代中期
 ④ 山陰歴史館



- ① 家形土器
 ② 湯梨浜町藤津
 ③ 弥生時代後期
 ④ 鳥取県立博物館

Information 情報

倉吉博物館



桜の名所である打吹公園の中にあり、倉吉市内出土の考古遺物を体系的に展示しています。

【開館時間】9:00～17:00
 (入館は16:30分まで)
 【休館日】月曜日(月曜が祝日の場合は翌日) 祝日の翌日・年末年始
 【入館料】大人:210円、高校・大学生100円
 中学生以下・70歳以上・障害のある方:無料

【交通】

JR山陰線倉吉駅からバスで20分
 赤壁・白壁土蔵バス停留所から徒歩 8分

【お問い合わせ】倉吉市仲ノ町3445-8 (0858)22-4409



Information 情報

琴浦町歴史民俗資料館

特別史跡斎尾廃寺跡出土品のほか、琴浦町でみつかったいろいろな弥生時代青銅器・土器などを展示しています。



主な弥生時代展示品

- 琴浦町田越出土銅剣
- 琴浦町久蔵峯出土銅矛

【開館時間】9:00～17:00

【入館料】 無料

【休館日】土日祝祭日

【交通】

JR山陰線浦安駅から

徒歩 1分

【お問い合わせ】
 TEL (0858) 52-1161 (琴浦町教育委員会社会学習課)



Information 情報

北栄町歴史民俗資料館

毎年4～5月頃に北栄町の遺跡からみつかった遺物を展示する企画展を開催しています。



【開館時間】9:00～17:00

(入館は16:30)

【休館日】毎週月・火曜日

【入館料<普通展示>】

(小・中学生) 町内10円

町外20円

(一般) 町内30円 町外60円

【お問い合わせ】

北栄町田井47番地1 (0858)-36-4309



見どころ

東伯耆の
 弥生時代遺物
 探索コース

湯梨浜町羽合歴史民俗資料館

15分

倉吉博物館

20分

琴浦町歴史民俗資料館

10分

北栄町歴史民俗資料館

鳥取県内出土の青銅器紹介

鳥取県でも銅鐸・銅剣・銅矛など、たくさんの青銅器がみつっています。このような青銅器は集落から離れた場所に単独で埋められていた例が多く、そのため発掘調査ではなく偶然発見されたものが多数を占めます。

おひさか
⑥ 下坂銅鐸

鳥根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸のなかに同じ鑄型で作られた“兄弟銅鐸”があることが分かっています。発見されたのは下坂銅鐸が先ですから、こちらが“兄”でしょうか。



鳥取県立博物館で見学できます。

こえし
② 越路銅鐸

④高住銅鐸と同じく流水文銅鐸です。こちらは香川県・徳島県で兄弟銅鐸がみつっています。



鳥取県立博物館で見学できます。

たかすみ
④ 高住銅鐸

昭和十年代、兎を捕るためのワナを仕掛けようと斜面の土を掘った際にみつかったものです。流水文と呼ばれる文様が美しい優品です。



鳥取市立歴史博物館で見学できます。

あおやかみちいせき
⑤ 青谷上寺地遺跡出土銅鐸片

「地下の弥生博物館」青谷上寺地遺跡からも3片の銅鐸がみつっています。いずれも破片であることから、溶かして他の青銅器をつくるための材料として持ち込まれた可能性が考えられます。



鳥取県埋蔵文化財センター蔵

ながせつかはまいせき
⑩ 長瀬高浜遺跡出土小銅鐸

長瀬高浜遺跡出土のもので、高さ8.8cmと県内最小の銅鐸で、「小銅鐸」と呼ばれています。「小銅鐸」はこの他に同じく湯梨浜町の⑨北福でもみつっています。



湯梨浜町羽合歴史民俗資料館で見学できます。

たこえ
⑭ 田越銅剣

日露戦争後、丘陵上の原野を開墾中にみつかったものです。銅剣が4本以上みつかったと記録されていますが、現在所在が不明なもの2本のみで、琴浦町歴史民俗資料館と鳥取県立博物館に1本づつ所蔵されています。



鳥取県立博物館・琴浦町歴史民俗資料館で見学できます。

こだ
⑪ 小田銅鐸

昭和22年頃、天神川のほとり、小田山で、戦争で亡くなった兵士の墓を造る際にみつかったものと伝わっているものです。



倉吉博物館で見学できます。

きゅうぞうみね
⑮ 久蔵峰出土銅矛

鳥取県で唯一みつっている銅矛です。矛とは、槍のように敵を突く武器で、下半部が柄を挿入するために筒状に鑄出されている点特徴です。



琴浦町歴史民俗資料館で見学できます。



因幡地域の遺跡

鳥取県東部を占める因幡地域の弥生時代遺跡は、千代川下流域に広がる鳥取平野と各河川流域の小平野、湖山池の周辺、鳥取市西部の青谷平野などに多く知られています。弥生時代の集落跡はおもに丘陵の裾や平野の自然堤防上に見られますが、周辺の丘陵上にも後期を中心とする遺跡が点在しています。また、地域的なまとまりごとに、集落遺跡と離れた山間部から銅鐸が出土しています。

湖山池の南にある丘陵周辺は、布勢遺跡・西桂見遺跡などの弥生遺跡が集中する地域です。小さな尾根ごとに後期の竪穴住居跡が数棟ずつ確認され、布勢鶴指奥墳丘墓や西桂見墳丘墓などの墳丘墓も造営されています。一方、千代川下流域の左岸平野部にある岩吉遺跡は、この地域の拠点集落と考えられ、中期から後期の掘立柱建物跡や水田跡が確認されています。また、右岸にある秋里遺跡は弥生時代後期から古墳時代まで続く祭祀遺跡です。

鳥取平野南側の門上谷遺跡では後期の墳丘墓が、東側

の西大路土居遺跡からは銅剣が出土しており、さらに袋川を遡った糸谷1号墳丘墓は、因幡唯一の四隅突出型墳丘墓と言われています。

千代川中流域にも弥生時代の遺跡がみられます。八頭町の万代寺遺跡では中期の大型竪穴住居跡と木棺墓群が確認されています。さらに千代川を遡った智頭町では、中田竹美遺跡などで後期の竪穴住居跡が調査されており、智頭枕田遺跡では、吉備(岡山県)地方と同じ形の土器が出土しています。

因幡東部の蒲生川流域では、県内で最も古い段階の新井三嶋谷1号墳丘墓が発掘調査されています。保存・整備されて見学することができる数少ない弥生遺跡です。

因幡西部の鳥取市気高町などでは、河岸段丘上に後期を中心とした竪穴住居跡が点々と発見されており、青谷平野には地下の弥生博物館と呼ばれる青谷上寺地遺跡が知られています。



あおやかみじちせき 青谷上寺地遺跡 地下の弥生博物館

国史跡 (鳥取市)

因幡地域西部の青谷平野にあり、国史跡に指定されている弥生時代遺跡。多彩な出土品とそのまれにみる保存状態の良さから「地下の弥生博物館」と呼ばれています。当時は内湾の水辺に面していたと考えられ、集落中心部では矢板などで周囲を護岸する大規模な土木工事がなされ、その西・南側には水田が広がっていました。農業・漁労を営みながら、他地域と海を介した交流・交易を行っていた弥生人の勇姿を彷彿とさせる遺跡です。

出土品は数万点に及び、「倭国乱」の実態を示すとされる殺傷痕人骨や奇跡的に残っていた弥生人の脳、弥生の匠のわざを伝える木製容器など、倭人の暮らしぶりを明らかにする資料は枚挙に暇がないほどです。「魏志倭人伝」に描かれた倭人の暮らしや弥生の国々の実態を示す数々の発見は全国から注目されています。遺跡に近い青谷上寺地遺跡展示館や鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室では、素晴らしい出土品を見ることができます。※現地は埋め戻されています。



漁労具とサカナの描かれた土器 精巧な木製容器 顔を割られた殺傷痕人骨



矢板が打ち込まれた土木工事の跡



動物の描かれた竹板



弥生時代の内湾範囲と青谷上寺地遺跡



Information 情報

青谷上寺地遺跡展示館

青谷上寺地遺跡で出土した多数の遺物が展示されているほか、勾玉作りなど、各種体験イベントを開催しています。

【開館時間】9:00~17:00

(入館は16:30まで)

【休館日】毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日の平日)、年末年始(12月29日~1月3日)

【入館料】 無料

【ボランティアガイド】事前申し込みが必要(無料)

【お問い合わせ】鳥取県鳥取市青谷町青谷4064

TEL.0857-85-0841



船と鹿を彫った板

Information 情報

鳥取県埋蔵文化財センター 青谷調査室

青谷上寺地遺跡調査係がある鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室では、「収蔵展示室」で青谷上寺地遺跡の出土品の収蔵状況を公開しています。

【展示解説】職員が展示解説を行います。

団体でお越しの際は事前にお申し込みください。

【公開日時】月~金曜日 9:00~17:00

【入館料】無料

【お問い合わせ】鳥取市青谷町青谷667番地

(青谷総合支所2階)

TEL.0857-85-5011



収蔵展示室

見どころ

青谷上寺地遺跡三昧コース

青谷上寺地遺跡

※現地は埋め戻されています。

≡ 10分

青谷上寺地遺跡展示館

≡ 10分

鳥取県埋蔵文化財センター
青谷調査室



勾玉



中国・朝鮮半島からの渡来系遺物

にいみしまだにいちごうふんきゅうぼ

新井三嶋谷1号墳丘墓 弥生玉墓の威容

町史跡

(岩美町)



斜面に石の貼り付けられた1号墳丘墓

因幡地域の東端、蒲生川を見下ろす小高い丘陵上にある県内で最も古い後期

初め頃の弥生墳丘墓。1号墓はこの時期としては最も規模の大きい南北24mの四角い形の墳丘の斜面に、びっしり石が貼り付けられており、3基の埋葬施設が見つかっています。2号墓は貼石のない方形墳丘墓でした。

保存された1号墳丘墓は岩美南小学校に隣接して整備され、因幡の弥生玉墓の威容を見ることができます。



にしかつらみふんきゅうぼ

西桂見墳丘墓 謎の大墳丘墓 (鳥取市)

発見された時には既に大半が破壊されていましたが、弥生時代終末期に造営された一辺64mある因幡地方最大の墳丘墓と言われ、最大の四隅突出型墳丘墓とする意見もあります。竹管文などの文様を施した特殊な大型土器が採取されており、王の埋葬にあたって特別に作られ、墓に供えられたものと思われます。



墳丘墓に供えられた土器(県立博物館所蔵)

ふせいせき

布勢遺跡 宋に彩られた祈り (鳥取市)

県営総合運動場の周辺では、中期末~後期前半の竪穴住居や掘立柱建物跡などが発見され、玉作を行っていたこともわかりました。このうち布勢鶴指奥墳丘墓は、弥生時代後期中頃に造営された南北約18mの方形の貼石墳丘墓で、埋葬に際しては木棺内に厚く水銀朱が敷き詰められていました。



布勢鶴指奥墳丘墓埋蔵施設

いわよいせき

岩吉遺跡 千代川下流域の拠点集落 (鳥取市)

千代川河口近くの左岸平野部にある大規模な低湿地遺跡。まだ十分な調査はなされていないが、弥生時代を通じて集落が営まれ、この地域にあった「クニ」の拠点集落だと考えられています。中期から後期の掘立柱建物跡や後期の水田跡が確認されています。他地域との交流を示す東海地方をはじめとする地域の土器が出土しています。



いとたにいちごうふんきゅうぼ
糸谷1号墳丘墓 四隅突出型の墓 **市史跡**
(鳥取市)

袋川中流域で丘陵上に造営された一辺17mの終末期の粘土墳丘墓。因幡地域で数少ない四隅突出型墳丘墓と考えられています。



まんたいじいせき
万代寺遺跡 弥生中期のムラと墓 **(八頭町)**

八東川と私都川に挟まれた微高地に営まれた中期中頃の集落遺跡。昭和57年に行なわれた発掘調査で、大型の竪穴住居や36基もの木棺墓などが確認されています。このうち木棺墓群は溝で区画され、方向を揃えて整然と配置されているのがわかります。



にしおおるといせき
西大路土居遺跡 因幡で唯一銅剣出土 **(鳥取市)**

鳥取平野東側の大路山の山裾に営まれた前期～後期の集落跡。竪穴住居や掘立柱建物、井戸跡などが確認され、近畿北部地域の土器がまとめて出土した住居もありました。

先端を欠いた銅剣が因幡地方で唯一出土しています。



銅剣が出土した様子

ちづまくらだいせき
智頭枕田遺跡 山間地の弥生集落 **(智頭町)**

千代川上流域の智頭枕田遺跡からは、溝や掘立柱建物跡とともに、前期～後期までの土器・石器が出土しています。県境にある遺跡らしく、岡山県地方と共通する土器も見つかっています。



Information 情報

鳥取県立博物館

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶことができる総合博物館で、旧石器時代から歴史時代までの代表的な出土品を展示しています。国史跡鳥取城跡の中にあります。

【開館時間】9:00～17:00

※4月から10月までの間は19:00まで開館

【休館日】月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取市東町2丁目

TEL:0857-26-8042

主な弥生時代展示品

- 西桂見墳丘墓出土土器
- 八頭町下坂出土銅鐸など



Information 情報

鳥取市歴史博物館(やまびこ館)

鳥取市内の歴史情報を学ぶことができる参加体験型博物館で、常設展示は「鳥取の風土」[城下町鳥取]など。

【開館時間】9:00～17:00

【休館日】月曜日、祝日の翌日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取市上町 TEL:0857-23-2140

主な弥生時代展示品

- 鳥取市高住出土銅鐸

Information 情報

鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県内の遺跡情報を知ることができるセンターで、多くの出土品を収蔵しています。展示室では県内で発掘された出土品などを見学できます。

【利用時間】9:00～17:00

【休館日】土・日、祝祭日、年末年始

【お問い合わせ】鳥取市国府町宮下
TEL:0857-27-6711

主な弥生時代展示品

- 湯梨浜町宮内第1遺跡出土鉄刀など



見どころ



青谷上寺地遺跡人面野石製品

鳥取市周辺コース

国史跡鳥取城跡もいっしょに見学しよう!
【展示遺物】
西桂見遺跡出土遺物
鳥取市越路出土銅鐸など

新井三嶋谷1号墳丘墓

≡ 30分

鳥取県立博物館

≡ 5分

鳥取市歴史博物館

≡ 10分

鳥取県埋蔵文化財センター

隣接する栲嶽神社は蜚の名所です。

【展示遺物】
鳥取市高住出土銅鐸など

遺物整理の様子も見学できます。

【展示遺物】
青谷上寺地遺跡出土遺物や宮内墳丘墓出土遺物など



Information 情報

青谷上寺地遺跡の出土品紹介

青谷上寺地遺跡から出土した豊富な遺物は、当時の人々の活動をリアルに物語ってくれます。

青谷上寺地遺跡展示館、鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室で見学できます。

戦い



彩色木盾
赤く塗られた木製の盾です。表面には文様が描かれています。



銅鏃
銅製のやりじりです。このほかに、鉄製・骨製・木製のものも出土しています。

交流



鑄造鉄器
大陸製の鉄器です。当時最先端の技術でつくられたことがわかっています。



貨泉
中国(新)のお金です。弥生人たちがこれをお金として使用していたかどうかは諸説あります。

ものづくり



玉作り
素材から作りかけのもの、完成品とすべての段階のものが出土しており、玉製品の製作過程が良くわかります。



木製容器
写真のような秀麗な木製品のほか、作りかけのものもたくさん出土しています。

漁労・稲作



漁労具と農具
鍬・鎌・槌などの農具や、櫂・釣り針・銛などの漁労具がたくさん出土しています。

占い



卜骨
占いに使われた動物の骨で、出土数は日本一を誇り、さかんに占いをおこなっていた様子がわかります。

弥生時代遺跡用語解説

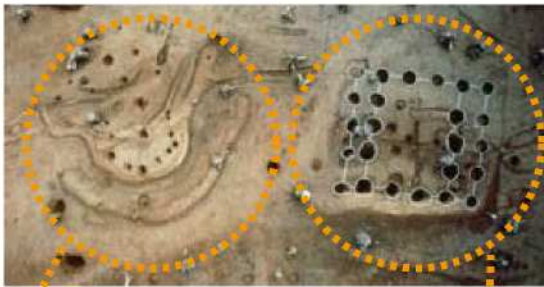


四隅突出型墳丘墓(妻木晩田遺跡)

墳丘墓

土を盛って造られたお墓のことで、同じく盛土によって造られた古墳と区別するために、弥生時代に造られたものを「弥生墳丘墓」、「墳丘墓」と呼んでいます。このような墳丘墓に葬られた人は、古墳と同じくある程度地位の高い人物であると考えられています。

山陰地方を中心とした地域に多く分布する四隅突出型墳丘墓も「墳丘墓」の一種です。



竪穴住居跡



復元竪穴住居(妻木晩田遺跡)

竪穴住居とは床面部分を1段掘り下げて建てられている建物で、掘立柱建物とは地面にそのまま柱を立てた形式の建物です。

発掘調査では、柱は腐ってなくなっているものがほとんどですが、柱の配置や規模によってこれらを見分けています。

下の写真は復元した竪穴住居と掘立柱建物です。

掘立柱建物跡



復元庇付掘立柱建物(妻木晩田遺跡)

環濠



田和山遺跡の環濠

集落の周囲または集落の一部を取り囲む溝。断面の形状はV字状または台形をしています。その多くは、防衛施設として機能したと考えられるものです。朝鮮半島から水稻耕作の技術や、武器等とともに北部九州に伝わり、日本列島各地に広がりました。山陰地方には居住域、貯蔵穴群、空閑地等(神聖な空間?)を囲む多様な環濠が中海沿岸や大山山麓で発見されています。

銅鐸の部分名称



図・写真を引用した主な文献

●鳥取県

- ◆倉吉博物館 1998『発掘された悠久の山陰』
2002『輝く古代の山陰伯耆国』
- ◆鳥取県埋蔵文化財センター編 1986『鳥取県の弥生時代』
- ◆鳥取県埋蔵文化財センター編 2006『鳥取県の考古学第2巻 弥生時代Ⅰ 稲作とくらし』
- ◆鳥取県埋蔵文化財センター編 2007『鳥取県の考古学第3巻 弥生時代Ⅱ 戦いと交流・墓とまつり』
- ◆鳥取県教育文化財団 2000～2002『青谷上寺地遺跡1～4』

●島根県

- ◆松江市教育委員会 2005『国指定史跡 田和山史跡公園』
- ◆島根県教育委員会編 1997『古代出雲文化展 一神々の国 悠久の遺産一』
- ◆島根県古代文化センター 1996『いにしへの島根ガイドブック』
- ◆島根県埋蔵文化財調査センター 2001『いにしへの川津を掘る 一あさくみがわのながれ一総集編』
- ◆島根県立博物館 2000『島根 悠久の歴史と文化』
- ◆島根県立古代出雲歴史博物館編 2007『弥生王墓誕生 出雲に王が誕生したとき』
- ◆大阪府立弥生博物館 2000『神々の源流 出雲・石見・隠岐の弥生文化』

※このほか、発掘調査が行われている遺跡については、各発掘調査報告書を参考にしました。

資料提供・協力機関

●鳥取県

岩美町教育委員会、智頭町教育委員会、八頭町教育委員会、鳥取市教育委員会、鳥取市歴史博物館、青谷上寺地遺跡展示館、三朝町教育委員会、倉吉市教育委員会、倉吉博物館、湯梨浜町教育委員会、湯梨浜町羽合歴史民俗資料館、北栄町教育委員会、北栄町歴史民俗資料館、琴浦町教育委員会、琴浦町歴史民俗資料館、大山町教育委員会、米子市教育委員会、淀江歴史民俗資料館、山陰歴史館、福市考古資料館、妻木晩田遺跡事務所、鳥取県立博物館、鳥取県埋蔵文化財センター

●島根県

安来市教育委員会、松江市教育委員会、島根大学、雲南市教育委員会、荒神谷博物館、出雲市、飯南町教育委員会、大田市教育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、江津市教育委員会、浜田市教育委員会、益田市教育委員会、津和野町教育委員会、隠岐の島町教育委員会、西ノ島町教育委員会、海士町教育委員会、島根県古代文化センター、島根県立八雲立つ風土記の丘、古代出雲歴史博物館、島根県埋蔵文化財調査センター